

ISSN 2759-6362

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要

第 132 号

令和 6 年10月

Bulletin of the Faculty of Education
Hirosaki University

No. 132

October 2024

弘 前 大 学 教 育 学 部

Hirosaki, Japan

目 次

神川彦松の 1925 年度「国際政治学概論」講義録	大 谷 伸 治 (1)
― 矢部貞治ノート (矢部家所蔵・衆議院憲政記念館保管) ―	
政治資金に関する調査結果報告 (東北選出国會議員)	蒔 田 純 (13)
法教育における法的技能の再構成	池 田 泰 弘 (23)
― 「21 世紀型能力」を手がかりに―	
ヒメジョオンの葉を用いた葉緑体デンプンの観察法	岩 井 草 介 (31)
	高 橋 勁 太
大学体育授業における身体活動について	益 川 満 治 (37)
：バスケットボールゲームを対象に	渡 邊 陵 由
	本 吉 好
	長 尾 芽 生
高強度運動における音楽聴取が与える影響について	工 藤 智 里 (47)
	渡 邊 柚 月
	益 川 満 治
ボールゲーム授業の実態について	益 川 満 治 (55)
	渡 邊 陵 由
	小 川 楓
大学生における体づくり運動に関する意識と授業の実態について	鈴 木 幸 光 (63)
	沖 田 祐 蔵
	益 川 満 治
	渡 邊 陵 由
教員免許取得希望学生における水泳授業に対する意識と実態	澤 田 有 里 (75)
	益 川 満 治
りんごの木の乾燥に関する研究	八 島 光 勇 (85)
― 実大材における減圧乾燥と自然対流式乾燥の比較―	廣 瀬 孝
	木 村 崇 之
りんごの木の粗さに及ぼす表面状態の影響	山 岸 将 也 (91)
	八 島 光 勇
	廣 瀬 孝
りんご剪定枝を原料とした紙糸用薄葉紙の引張強さに関する研究	廣 瀬 孝 (95)
	八 島 光 勇
学生の ICT 活用指導力に関する調査 (2023 年度)	櫻 田 安 志 (99)

服の印象におけるデザイン，色，素材の優位性……………	安 川 あけみ (103)
	山 地 直 樹
評価者が重視する観点とルーブリックの活用効果……………	佐 藤 剛 (111)
ー小学校外国語科における話すこと（やり取り）の	大 高 智 英
パフォーマンステストにおける分析ー	北 向 周 平
	小 川 快 都
	佐々木 駿 介
	柴 田 真 帆
	中 村 尚 平
	畠 山 大 輝
	柳 谷 美 羽
第二言語レジリエンスの媒介規定要因としてのハーディネス……………	野 呂 徳 治 (121)
ーL2 ハーディネス測定尺度の開発の試みー	
特別支援学校（肢体不自由）における重複障害のある子供への……………	森 山 貴 史 (129)
「自立活動の視点を加味した」摂食指導の現状に関する文献検討	天 海 丈 久
	小田桐 直 美
	寺 本 淳 志
幼児期からの学びの接続の現状と課題……………	武 内 裕 明 (141)
ー小学校の教師用指導書にみる幼児期の学びの内容からー	
中央教育審議会第 16 特別委員会における「能研テスト」の ……………	中 村 恵 佑 (149)
政策形成過程に関する分析	
ー財団法人「能力開発研究所」の設置形態に着目してー	
地方国立大学をハブとした散在地域における外国につながる……………	吉 田 美 穂 (163)
子ども支援ネットワークの形成	
ー青森モデルが提起するものー	
特別支援学校（知的障害）におけるキャリア・パスポートの……………	藤 川 雅 人 (175)
記入の難しさとその対応	杉 中 拓 央
	菊 地 一 文

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 原則として各年度の10月及び3月の年2回 Web 版で発行する。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて組上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷やCD-ROMを希望する場合は、投稿の際に必要な数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は電子化された論文を「弘前大学学術情報リポジトリ」にて公開する。

この規定は、令和2年11月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付すること。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入箇所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるよう明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」と「原稿受領書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

帆 莉 基 生
安 川 あけみ
新 川 広 樹
佐 藤 光 輝

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第132号
(2024年10月)

令和 6 年10月23日発行
編集兼発行者
弘 前 大 学 教 育 学 部
弘前市文京町 1 番地
電話 (0172) 36－ 2 1 1 1 (代)
印刷所 小 野 印 刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32－ 7 4 7 1 (代)

CONTENTS

Kamikawa Hikomatsu's 1925 lecture "Introduction to International Politics" : Transcription of Yabe Sadaji's note	Shinji OHTANI (1)
A Report of Research Results about Political Money (regarding Diet Members elected from Tohoku area)	Jun MAKITA (13)
Reconfiguring Legal Skills in Law-Related Education —Taking “21st Century Competencies” as a clue—	Yasuhiro IKEDA (23)
A Simple Method for Observing Chloroplast Starch Granules in Leaves of <i>Erigeron annuus</i>	Sosuke IWAI (31) Keita TAKAHASHI
Physical Activity in College Physical Education Classes : For the Basketball Game	Mitsuharu MASUKAWA (37) Takayuki WATANABE Yoshimi MOTOYOSHI Mei NAGAO
Understanding the Effects of Listening to Music in High Intensity Exercise	Chisato KUDO (47) Yuzuki WATANABE Mitsuharu MASUKAWA
The Actual State of Ball Game Classes	Mitsuharu MASUKAWA (55) Takayuki WATANABE Kaede OGAWA
Awareness and Actual State Classes Concerning Physical Fitness (Karada-tsukuri Exercise) among University Students	Yukimitsu SUZUKI (63) Yuzo OKITA Mitsuharu MASUKAWA Takayuki WATANABE
Attitudes toward Swimming Lessons among University Students Wishing to Obtain Teaching Licenses	Yuri SAWADA (75) Mitsuharu MASUKAWA
Study on the Drying of Apple Wood —Comparison of Drying under Reduced Pressure Conditions and Natural Convection Drying for Full-Scale Timber—	Mitsutoshi YASHIMA (85) Takashi HIROSE Takayuki KIMURA
Effect of Surface Condition on the Surface Roughness of Apple Wood	Masaya YAMAGISHI (91) Mitsutoshi YASHIMA Takashi HIROSE
Study on the Tensile Strength of Tissue Paper for Paper Yarn Made from Apple Pruned Branches	Takashi HIROSE (95) Mitsutoshi YASHIMA
Survey on Students' ICT Utilization Teaching Ability (2023)	Yasushi SAKURADA (99)

Superiority among Design, Color and Material in Impression of Clothing ...	Akemi YASUKAWA (103)
	Naoki YAMAJI
Rater Priorities and the Effectiveness of Rubric Use	Tsuyoshi SATO (111)
: An Analysis of Performance Tests for Speaking Interaction	Tomohide OTAKA
in Elementary School Foreign Language Classes	Shuhei KITAMUKI
	Kaito KOGAWA
	Shunsuke SASAKI
	Maho SHIBATA
	Shohei NAKAMURA
	Taiki HATAKEYAMA
	Miu YANAGIYA
Conceptualization of L2 Hardiness as a Mediating Factor of L2 Resilience:	Tokuji NORO (121)
Developing a Prototypical Measuring Scale of L2 Hardiness	
A Literature Review on the Current State of Eating Guidance	Takashi MORIYAMA (129)
"with Activity for Independence Perspective" for the Children	Takehisa AMAGAI
with Multiple Disabilities in Special Needs Schools	Naomi ODAGIRI
for Children with Physical Disabilities	Atsushi TERAMOTO
Current Status and Issues of the Smooth Learning	Hiroaki TAKEUCHI (141)
from Early Childhood Education to Elementary School Education	
: From the Contents of Early Childhood Learning Described	
in Elementary School Teacher's Guidebooks	
An Analysis of the Policy Formation Process of NOKEN Test	Keisuke NAKAMURA (149)
at the 16th Special Committee in the Central Council for Education:	
Focusing on the form of Establishment of the Incorporated Foundation	
Educational Test Research Institute.	
Formation of a Support Network for Culturally	Miho YOSHIDA (163)
and Linguistically Diverse Children in Areas with Scattered Foreigners	
with Local National Universities as Hubs:	
Raised from the Aomori Model	
Difficulty in Filling out Career Passport in Special Needs Schools	Masahito FUJIKAWA (175)
for Children with Intellectual Disabilities and How to Deal with Them	Takuo SUGINAKA
	Kazufumi KIKUCHI